

現地研修

## 大阪湾を味わいつくすコース（1泊2日） — 大阪湾沿岸の自然 —

府立りんくう翔南高校 村上 智加子 府立泉大津高校 濱野 彩 府立佐野高校 靱谷 健太

大阪大会の実施が決まってから、他府県の先生方に大阪湾の生物の豊かさを知ってもらいたいと、この研修の企画が始まった。地元の自然博物館や漁業協同組合等の全面的なご協力をいただき、今回の研修が実施できたことに、改めて深い謝意を申し上げたい。

8月11日(金)

11名の先生方の参加をいただき、スタッフ2名とともに昼食後、会場を後にして宿泊研修場所である大阪府青少年海洋センターへ移動。駅で出迎えたスタッフとともに会場へ。

15時から2時間の予定で「チリメンモンスターを探そう」の実習を行った。きしわだ自然資料館の柏尾翔学芸員を講師として、大阪湾の生き物の紹介の後、実習開始。見つけたチリメンの保存方法等、学校現場で生徒に実習として行うための工夫も学ぶことができた。その後は大阪湾の魚を味わっていただくということで、地元の日本料理店からケイタリングしたお弁当で夕食。できるだけ地元で採れた食材で、まずは大阪湾を実際に味わっていただいた。

20時から「ウミホタルの観察」。貝塚市立自然遊学館の山田浩二学芸員が講師となり、説明・実習の指導を行ってくださった。天候や潮の状態、実施にウミホタルが採れるかどうかやってみないとわからないということで、もし取れなかった場合に備え乾燥ウミホタルも準備していたが、全くの杞憂に終わった。遊学館から持ってきていただいた仕掛けだけでなく、各自がペットボトルで作った仕掛けに大量のウミホタルが入って、多くの先生方が、ウミホタルを茶こしで濾して部屋へ持ち帰えられた。宿泊施設の時間制約もあり、1時間半しか実習時間が取れず、こちらが用意していた乾燥ウミホタルを使った発光実験は行えなかったため、皆さ

んにお持ち帰りいただくこととした。

8月12日(土)

朝食もそこそこに8時半に宿舎を出発し、西鳥取漁港へ移動。西鳥取漁業組合は2016年から「波有手(ぼうで)のカキ」として、本格的に牡蠣養殖を開始し、カキ小屋の営業だけでなく、小中学生への海洋教育の推進を熱心に行っている。そこで地曳網を体験してもらい、その後船で牡蠣いかだへ移動。いかだに乗り移って、シュノーケリングや箱眼鏡で生物の観察を行った。海から上がって、昼食はカキ小屋で、漁師弁当を頂いた。

13時過ぎに貝塚市立自然遊学館へ到着。40分の短い時間で見学を終え、きしわだ自然資料館へ。こちらでも見学時間は1時間しか取れなかった。参加された先生方からは「どちらの施設も時間があれば、もっと色々見たかった。」という感想をいただいた。



企画から実施まで、数年かけて行ってきたが、今回の研修が実施できたのは、学校現場だけでなく、地元の方々と協力しながら、子供たちに海洋教育・生物教育を行ってきた研究会の先輩の先生方のお陰である。普段から学校現場だけでなく、広く様々な方々と繋がりを持って活動を行うことが、教員の力を高め、生徒への教育活動に良い影響があることを学ぶことができた。